

## 座談会

草山ゼミの学生とときさん、公募参加のミツ子（乾光男）さんとかかわち（河内千寿）さん、障害のあるゆかさんときみる（中野美瑠希）さんのお母さん、いずれも2年間連続参加の方々にお集まりいただき、昨年からのプロジェクトを振り返りました。



### それぞれ参加されたきっかけは？

**ときさん**：障害のある人との関わりは日常生活で経験できないですし、ダンスは初めてでしたが身体動かすのが好きなので、その一環でいろんな人と関わってみたいと思って参加しました。

**ミツ子**：私は他者がダンスをやっている経験者ですが、障害のある方に関わることでできるのがこの企画の趣旨ですが、「誰をも一緒に踊りますよ！」と。

**かわち**：私は演劇の経験者で2018年秋から茨木市文化振興財団主催の演劇ワークショップに参加していましたが、コロナで全部できなくなっていました。昨年夏、茨木市の広場でダンスワークショップのこの事を知って、行ってみたいダンスもすこく楽しかったんです。

**ゆかさんのお母さん**（以下、ゆか母）：うちほどもとも通っていた障害のある子のダンスチームの先生に、声を掛けてもらいました。人見知りでも最初は固まってしまう、声も出なくて動けなかったけれど、ちょとずつ楽しめるようになって、今年度も参加させてもらいました。本人の中でも自分が成長したと思ったみたいです。

**ときみるさんのお母さん**（以下、ときみる母）：うちもゆかちゃんと同じ所で習っていたんですが、病気になったことでコロナ禍での活動が休んで、ダンスから引退してたんなんです。昨年夏の発表会が復帰一弾で、兄や祖母がみんな来てくれて、元気になったんです。感動して大満足。今年も参加するって即答です。

今年度12回の稽古と公演が終わりました。2年間を振り返っていかがですか？

**ときさん**：去年は部活動との兼ね合いで前半は参加できず、今年も初回から参加できたのですがあっという間でした。本番3日前にまっくら膝になつてリハールは全然動けなかったんですが本番で痛みはなかったの思い切り舞えました。終わって爽快感を感じています。

**みる母**：学生さんに声を掛けてもらえることがうれしくて、楽しい様子でしたよ。もう25歳にならぬみるですが、学生はお兄ちゃんか姉ちゃん的な存在なんです。

**ミツ子**：社会人になった5年間の4回生が本番前の控室に来てくれたのもうれしかったです。学生さん年代と付き合えること、関係性が変わったことが幸せです。

**ゆか母**：幸甚！社会人になっても関わってののほほらしいですね。ゆかも公演の後、うれしそうに写真を撮ってもらっていました。

**みる母**：みるは週末を楽みにしていましたよ。森田さんのダンスは「自由に表現してごらん」というスタンスなので、創作や表現を伸び伸びやっていた印象でした。家で「ママやたらどう表現するの？」ってやられるんですけど、参加することで娘が自分がすこく自信を持ってたんじゃないかと思えます。

**ゆか母**：リハールを見た時に「いつの間になんかできないようになったらやろう」とって、去年からの成長に驚きました。補助に入られた先生のフォローもありがたかったです。

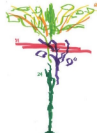
**かわち**：ゆかちゃんの5年からの成長には、泣いてしまうほど感動しました。自分の昔を思い出して、私、実は子どもの頃、人前に出ると全然動けなくて話もできなかつたので、ミツ子：突然スイッチが入ったように切り替わって、あのシーンは僕もいらいはん覚えてますよ。

**ゆか母**：自分を表現できなくて、2年目にそれこそ経験を活かすことで表現できるようになれたらいいなと思っていました。あまり泣いてくれませんが「あの時こうすれば良かった」と自分の中で振り返っていたように、したいことをあの子なりに話せるようになったことが成長だと思っています。

**みる母**：ゆかちゃんうちの子、本人同士はあまり関わり合わずだったけれど、最近ではお互い関わり合っているみたいです。  
**ゆか母**：私もゆかちゃんたちとダンス機会が少なかったんですけど、今年はいっしょに話話できるようになって、それも子どもがおかげ、こういう出会いにも感謝しています。

### 『人生のダンス』は森田さんを介さず参加者主体でつくりましたね。

**かわち**：絵は描き進んでいく中で、自分の人生を描いてそれを他の人が観るというところで長体的に描くのは難しかったです。たまたまミツ子さんの絵を私が観ることになって受け取った絵を見たら、すこくアウト！（笑）そこでも木が描かれているのは分かったので、成長しているイメージで踊りました。  
**ミツ子**：絵、描き進んだ。僕は深く考えずインスピレーションで展開しました。50-60年生きてきた人生をダンスにできるのが純粋に面白くて、若い人ともっと描き重ねてきた時間とも違いました。年を取っても、ダンス経験のない方もやってみると面白いですから、一歩踏み出して参加してほしいですね。



### 逆に大変だったことは？

**ミツ子**：今年も去年も人数が多くて、一つの公演をするために森田さんがかなり人数をコントロールされるのが難しかったです。子どもたちの扱いも周りの人が大変だったと思います。でも僕はいつか孫と舞台上に立ちたいという夢があるのと、子どもたちと一緒にシーンをつくことは一つは望みでもあって、子どもの存在は個人的に必要だと思います。

### 年代や性別、障害のあるなし、積極性の違いなども経験されたと思います。

**ときさん**：障害があるかどうかは最初からあまり意識しませんでした。ゆかちゃんとも仕事や外国からの留学生と接していて、いろんな人とののは楽しいと感じますし、障害のあるなしは意識しないです。むしろ自分が年を取って痛がった時に聞こえにくくなるので、逆に助けてもらってます。高齢なると若い人いいないという気持ちになっちゃうんですけど、森田さんのダンスはそれを感じさせず楽しめるっていいなと思っています。

**かわち**：私も普段から仕事や外国からの留学生と接していて、いろんな人とののは楽しいと感じますし、障害のあるなしは意識しないです。むしろ自分が年を取って痛がった時に聞こえにくくなるので、逆に助けてもらってます。高齢なると若い人いいないという気持ちになっちゃうんですけど、森田さんのダンスはそれを感じさせず楽しめるっていいなと思っています。

**ミツ子**：森田さん自身が障害者で、10年前はこのように形の公演は多分なかったでしょう。社会の流れ、これからの流れだと思います。ますます増えてくると思います。動けないとダンスじゃないってイメージされがちですが、立っているだけでダンスだと話すダンサーもいます。ただし、立つ覚悟が必要。誰でも覚悟があればできるということ、そういうダンスがあることを告知するための良い機会だと思います。決められたのではなく、自分の表現がダンスであり、意味のあることだと思います。

### これからの表現活動に必要なことは？

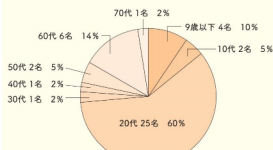
**みる母**：コロナ禍で学生さん、子ども、ミドルシニア世代の関わり合いがなくなってしまったので、もっとできるようなになれば、ずっとみんなにもって知ってほしいですね。  
**ミツ子**：僕らが楽音ではないこと。  
**ゆか母**：まだ身内しか足を運ぶ機会がないと思うので、会場が演義になって理解、共感してもらえないように。  
**ときさん**：大学でもチラシを掲示して、興味のある人にあげてほしいです。  
**かわち**：気軽に参加してくれるといいなと思いますし、続けることでも広がっていくと思います。

### 皆さんありがとうございました。これからよろしくお願ひします。



## みんなにアンケート

### ダンス公演参加者年代別グラフ



※全参加者42名（うち茨木市在住・在学・在勤33名）  
・一般公募21名  
・進学予備院大学大学生21名

### 公演参加者の達成度ランキング

※※※※※アンケートの回答結果より。

1位	一から何かをつくりあげたい
2位	自己成長
3位	達成感を得たい
4位	さまざまな年齢の人と関わりたい

### 公演を終えた感想は？

●バリエアリってむずかしいなと思いました（50代）  
●発表の場があることは大変だけどすこく達成感があり気持ち一つにすることができると、同じ場所にいることが大事。それでみんなでもチャチャやると幸せを感じる（60代）

- 自分のペースで成長してくれませんか？とにかく成長したかな、心が（20代）
- 土日がみんなのおおげでまちとおしかったー！（大学生）
- 自分のできることを、とにかくやれたい、それでいいと思った（40代）
- 様々な年齢の方と出会い、ダンスを通して一人一人のことを少しずつ知ることができました。これらも自分の表現を大切にしたい（10代）

### 観覧してくれたみんなの声も！

- ダンス屋の長短、年齢も様々な踊りを観られて、興味深かったです。
- 障害のある人と踊る活動しています。今日の公演で居場所を築き上げたいと思っています。
- 楽しそうにダンスしていることが伝わってとても良かった。
- 年を取ること日々戦い…… 思い出しました。また夢を持って走ります。ありがとうございます！